

YWVOB会 会報 No.39

横浜国立大学ワンダーフォーゲル部OB会 苗名小屋40周年記念号

<http://ywvob.com/>

2008年 9月 1日発行

～ 39号（苗名小屋40周年記念号）の目次 ～

• 苗名小屋 40 周年 記念行事の案内・・・・・・・・・・ 1	• 横国大ホームカミングデーの案内・・・・・・・・ 8
• 苗名小屋 40 周年記念式典・懇親会・・・・ 2	• 自由投稿 オーストラリア便り・・・・・・・・・・ 9
• 40 周年記念・第 23 回 OB 山行の案内・・・・ 3	• 故齋藤伸一君を悼む・・・・・・・・・・ 11
• 2009 年度 OB 総会の案内・・・・・・・・・・ 3	• 現役部員の活動紹介 春合宿報告・・・・・・・・・・ 12
• OB 会役員会報告・・・・・・・・・・ 4	• 夏合宿壮行会が盛大に・・・・・・・・・・ 14
• 第 22 回 OB 山行（笠取山）報告・・・・・・・・ 5	• OB 会費納入のお願い・・・・・・・・・・ 14
• 苗名小屋便り 歴史を訪ねる里山歩き（1）・・・・・・・・ 6	• OB 会報の発送と OB 会費未納ついて・・・・ 15
• 小屋創立 40 周年記念行事報告・・・・・・・・ 7	• 編集委員からのお知らせ・・・・・・・・ 15

■ 苗名小屋40周年 記念行事の案内

小屋40周年記念行事実行委員会・委員長 安藤貞利（11期）

“青春時代の小屋への熱き思いを語ろう”

山小屋建設40年目にあたる今年、記念行事を行うこととなり、実行委員会のもと、10月に苗名小屋において記念山行、記念式典が催されることになりました。

苗名小屋は、YWV 創部10周年記念行事の一環として、山小屋建設運動を進めてから4年目の1968年10月に落成しました。山小屋はワンゲル活動の根拠地として、そして現役・OBが心をつなぐ場所として、またワンダーフォーゲル活動発展の源としてその歩みを始めました。それから40年間、現役の各期が活動の拠点として集まり、小屋合宿を行い、小屋の維持のため雪下ろし、小屋整備と力を入れてきました。その継続した努力で、小屋は豪雪に耐えこれまで生き延びてきました。この小屋建設40周年を機会に、小屋建設の原点と、山小屋で過ごした青春時代を思い起こし、山小屋に集い語ろうではありませんか。

記念の行事として、火打山登山と笹ヶ峰周辺散策を計画しています。

12日（日）は、秋の紅葉が見ごろとなる火打山に登りますが、草紅葉のきれいな高谷池周辺を楽しむこともできます。13日（月）は、乙見湖から夢見平の散策コースをゆっくりと楽しむようにします。多くの方のご参加をお待ちしています。

苗名小屋は、40年前と変わらぬ姿で妙高の麓にあります



苗名小屋



天狗の庭から火打山

ここで山小屋の現状について少しご報告して、山小屋の今後についてお考え頂ければと思っています。ここ数年は、現役部員が減り、現役が小屋に入る機会が少なくなり、小屋活動はOBによる小屋維持活動が主体となっています。小屋を多くの人に使っていただくために、OB会の小屋委員会と有志によって、小屋の環境整備を行ってきました。2階の床を張り、すべての布団を2階の布団棚に収納しました。そのため、布団が乾燥して、湿った布団で寒い思いをすることはなくなりました。太陽電池を設置して、いつでも明かりを使えます。夜もフットライトがあり、小屋の中では懐電がいりません。昨年は、台所の壁を垂直にして窓をつけ、シンクを大きく使いやすくしました。今年は、さらに南面ガス台の壁を垂直化して、窓をつける予定です。

このように少しずつ小屋整備がされていますが、一方で小屋の土台が腐食したり、1階床が長年の湿気と歪みで波を打つようにゆがんできました。

小屋は整備が進んで来ていると同時に、老朽化も進んでいます。多くの方々に小屋への関心を持っていただき、40周年を機会に小屋を再び訪れてみようというきっかけにいただければと思います。

苗名小屋 40周年記念式典・懇親会

〔日 程〕 2008年10月12日(日) 17:00～

(午前5時半から午後4時までは火打山登山が行われています)

〔場 所〕 苗名小屋

〔交通手段〕 *列車/バス

東京 9:48 - (新幹線あさま 513号) - 11:17 長野 11:31 - (信越本線) - 12:12 妙高高原 13:35 - (笹ヶ峰バス) - 五八木 14:05 - YWV 駐車場 14:10 頃自由下車

※マイカーでお越しいただける方は、お申し込みの際その由ご連絡下さい。

※懇親会にてお酒を飲まれる方は、飲食後に運転なさらないようにして下さい。

〔内 容〕 17:00 ～ 記念式典

1. 嘉納会長の挨拶
2. 小屋建設委員会郡司委員長(4期)の建設経緯の話
3. 小屋設計者久野氏(6期)の挨拶
4. 各年代代表の小屋思い出話
5. 記念撮影

18:00 ～ 懇親会(小屋広場でバーベキュー) 参加費は無料です

40周年記念・第23回OB山行の案内

山行委員長 小野恵美子 (34期)

- 〔日程〕 2008年10月12日(日)、10月13日(祝)
- 〔行先〕 ①火打山(2461.8m)(10/12実施) ②笹ヶ峰周辺(10/13実施)
- 〔地図〕 昭文社山と高原地図「18妙高・戸隠・雨飾」
- 〔集合〕 ①12日(日) 午前5時30分 苗名小屋
※ 遠方の方は10月11日(土)中に妙高入りしてください。
②13日(祝) 午前8時30分 苗名小屋
- 〔行程〕 ①10月12日(日) 火打山
苗名小屋＝(マイカーに分乗)＝笹ヶ峰6:00——富士見平——高谷池ヒュッテ——
火打山11:30——高谷池ヒュッテ——富士見平——笹ヶ峰16:00
〔歩程 約8時間30分〕
- ②10月13日(祝) 笹ヶ峰周辺散策
苗名小屋＝(マイカーに分乗)＝笹ヶ峰9:00——夢見平遊歩道、ヒコサの滝自然
歩道等、散策——笹ヶ峰13:00
- 〔持ち物〕 昼食、水、おやつ、雨具、防寒具、その他登山に必要な物

記念式典・懇親会・記念山行の申し込み

参加ご希望の方は、9月20日までに下記申し込み事項を、担当者までご連絡ください。

〔申し込み事項〕			
どのプログラムに参加されるか……	A 火打山登山	B 笹ヶ峰周辺散策	C 記念式典・懇親会
宿泊は(11日と12日について)……	A 苗名小屋	B 五八木荘	C その他
交通手段は……	A 列車	B マイカー	C その他(〇〇車に同乗など)

- 申込先 安藤 貞利 (11期) TEL: 044-422-0766 メール: saando@nifty.com
榎本 吉夫 (12期) TEL: 090-8558-4903 メール: eno2san4desu@mj.scn-net.ne.jp
小野恵美子 (34期) TEL: 080-5517-7320 メール: emiko150@ezweb.ne.jp
後藤 誠史 (39期) TEL: 03-3774-6012 メール: mag@remus.dti.ne.jp

2009年度OB総会の案内

会長 嘉納 秀明 (1期)

幹事長 石川 真 (41期)

2009年度のOB総会を下記の通りに開催します。今年は横浜国立大学ホームカミングデーに合わせて同日に同じ常盤台キャンパスで開催しますので参加しやすくなりました。

また総会後に懇親会も予定しており、楽しい一時をお過ごしいただけたらと思います。是非ご参加下さい。

- 〔日時〕 2008年11月15日(土) 13:30～15:00 (受付は13時から)
- 〔場所〕 横浜国立大学 常盤台キャンパス 教室番号は追って参加者にご案内します
- 〔議題〕 2008年度OB会活動報告、会計報告(一般会計・小屋会計)、会計監査報告
2009年度OB会活動計画、会計予算(一般会計・小屋会計)、会長人事、役員人事、
新会員承認、その他

■ OB会役員会（第2回・第3回）報告

幹事長 石川 真(41期)
副幹事長 小野恵美子(34期)

2008年度第2回の役員会を下記のとおり実施しました。

日 時：2008年4月12日（土） 14時～16時

場 所：ルノアール関内第2店

出席者：嘉納（1） 吉野（2） 吉村（3） 鈴木（9） 下村（10） 安藤（11） 榎本（12）
笹倉（30） 小野（34） 後藤（39）

議 事：・会長より、今期で退任希望。次期会長の選任方法を検討していく。

- ・OB山行、5/17笠取山、10月に火打山を予定。
- ・山小屋、雪下ろし3回実施。

今後の予定、5月小屋入り、8月メンテナンス、10月40周年記念行事。

- ・編集、会報39号8月末発行予定。OB総会、小屋40周年記念行事の告知がメイン。
- ・OB総会、国大のホームカミングデーに合わせ、教室を借りる。日程、内容を確認する。
- ・HP、容量が大きくなっており、1Gから3Gへの移行を検討中。
- ・小屋40周年記念行事、実行委員会をつくる。予算はOB会計から。

2008年度第3回の役員会は、暑さ厳しい中、初めての地の横須賀市汐入にて開催されました。

初めての地を訪れるのは楽しいもの。とはいえ、遠方に在住の役員は片道2時間余の道のりをかけての参加となり、秋の行事に向けて熱い議論が行われました。

日 時：2008年7月12日（土） 13時30分～16時30分

会 場：横須賀市民活動サポートセンター

参加者：嘉納（1） 吉野（2） 吉村（3） 鈴木（9） 下村（10） 安藤（11） 榎本（12） 横溝（21）
小野（34） 後藤（39） 石川（41） 塩野（46）

議 事：① 2009年度OB総会

- ・日程、横国大HCDとの関連、会場、議案、役員改選、終了後の懇親会等について

② 苗名小屋40周年記念行事

- ・6月実施済みの小屋での山菜採り、8月の花火大会、キャンプファイヤー、10月の苗名小屋での記念行事について、40周年記念行事実行委員長、小屋委員長、山行委員長より報告と提案があり検討の結果、前ページのような内容で記念行事を行うことになった。

③その他

- ・編集委員よりOB会報内容について報告
- ・小屋委員より苗名小屋土地契約更新について報告（鈴木道夫小屋委員が契約実施）
岡田究氏を名誉会員に推し、OB会報を今まで通り送付することで承認を得た。
- ・HP委員より、YWVOB会のHPを原則公開としたとの報告があった。
（HPにログインできないとの声を受けて）

※ 次回役員会は10月25日（土） 13:00～17:00

場所：多摩区民館

（小田急線 向ヶ丘遊園駅 より徒歩5分）



■ 第22回OB山行（笠取山）報告

山行委員長 小野恵美子 (34期)

日程：2008年5月17日（土）

参加者：嘉納 (1) 吉田 (1) 吉野 (2) 腰塚 (3) 谷上 (4) 小林 (7) 鈴木博子 (7)
松本 (7) 松本 (8) 佐木 (8) 鈴木弥栄男 (9) 山本 (10) 山本夫人 (部外)
山本友人 (部外) 榎本 (12) 小口 (14) 山下 (17) 小野 (34)

計 18 名・敬称略・() 内数字は期

新緑の5月の土曜日、笠取山に登ってまいりました。笠取山は多摩川の源流で最初の一滴がここから始まるという山です。でも地味な山容とアプローチの不便さのためかややマイナーであり、OB山行としてはそれがかえって良かったのか、18名という大所帯での山歩きとなりました。

電車組とマイカーでのお迎え組は9時に塩山駅に集合。この時点ではよく晴れて爽やかなお天気でしたが、登山口である作場平橋に着いたところには怪しい雲行きに……。直接登山口に来た方々と合流し、開会式を行い、気を取り直して10時過ぎに歩き始めました。時々雨粒を感じながらも、歩きやすい山道を進み、程無く笠取小屋に到着。立派な山小屋の前は広場になっており、ここで昼食にしました。山桜が咲いていて良いお花見ができました。今回初参加の鈴木博子さんは、現役時代以来の登山とのことでしたが誰よりも重い荷物で来られ、ここで皆にたくさんの差し入れを振舞ってくださいました。おいしいお稲荷さんとサクランボ、ご馳走様でした。

30分の休憩後再出発。景色が開け、まもなく小さな分水嶺がありました。ここに落ちた雨水は、多摩川、荒川、富士川のいずれかに分かれていくそうです。さらに少し歩くと頂上に向かう急登が見えてきました。山の上に山があるようにきれいな円錐が目の前にあり、標高差約100mの急勾配のため息が出ました。ゆっくりゆっくり進んで登りきったところが山頂かと思いきや、さらに進んだ狭いところが本当の山頂でした。狭いので数人ずつ記念撮影をしました。少し下って分岐から水干神社までピストン。多摩川の最初の一滴を祀っているようですが、その一滴は確認できず。実際にはそこからさらに下った水場がそのようです。そこからは下山の一路。何だか眠くなるようななだらかな下りでした。晴男・晴女と雨男・雨女の攻防が続いていましたが、下山中に雨脚が強くなり、観念して雨具を着けた頃には雷まで鳴り始めました。

やはりここは水の神様の山。水の大切さを思う山行に雨は必要だったのだと雨女は思います。最後に車道を歩き、15時半に作場平橋に戻ってきました。閉会の後、大菩薩の湯に寄った頃には珍しい天気雨が降っていました。



新緑の中を出発



やっと登ったと思ったら・・・ニセ山頂で

■ 苗名小屋便り

歴史を訪ねる里山歩き（1）

～ 春日山城とその支城歩き ～

鈴木 道夫（14期）

苗名小屋から車で北に向かい、1時間かからぬところに上杉謙信の居城であった春日山城跡があります。春日山城とその支城についてお話しをしてこれらの城跡を訪ねる里山歩きのコースを紹介します。「苗名小屋たより」というタイトルとは趣が異なりますが、年配のOBには興味を抱いていただけるかもしれません。2回に亘ってご紹介したいと思います。

< 歴史のお話 >

NHKの昨年大河ドラマは「風林火山」でした。甲斐の雄、武田信玄の好敵手として越後の上杉謙信が登場していましたね。（5期の諸角さんは信玄の重臣であった諸角豊後守の血筋だそうです）川中島の戦いはたいへん有名ですが、謙信の居城は春日山城です。さて来年大河ドラマは「天地人」となり、直江兼続が描かれます。豊臣秀吉をはじめ当時の武将達からは高く評価された人物のようです。兼続の主君は謙信の甥にあたる上杉景勝であり、景勝は謙信の養子として謙信の跡を継ぎます。景勝・兼続主従も春日山城に在城しました。

そのような訳ですから、いちど春日山城跡（標高180m）を歩いてみれば来年大河ドラマも興味深いものになると思います。

越後の国（新潟県）は北東から南西へ延びていますが、越後の国府は南西に偏った上越地方にありました。春日山城は国府を含めて上越地方の頸城平野を一望にできる小高い山上に築かれました。中世の頃、城の多くは山城にして石垣はありません。山頂や山腹を切り開いて館を建て、空堀を設けて城としました。防御を中心に考えており、近世のような行政の中核機能を考えて平野に建てることはしていません。県内には多くの山城がありますが、春日山城跡は規模が大きくて保存状態も良好な山城です。本丸、二の丸、三の丸跡、景勝や兼続屋敷跡などが残っています。

< 里山歩き >

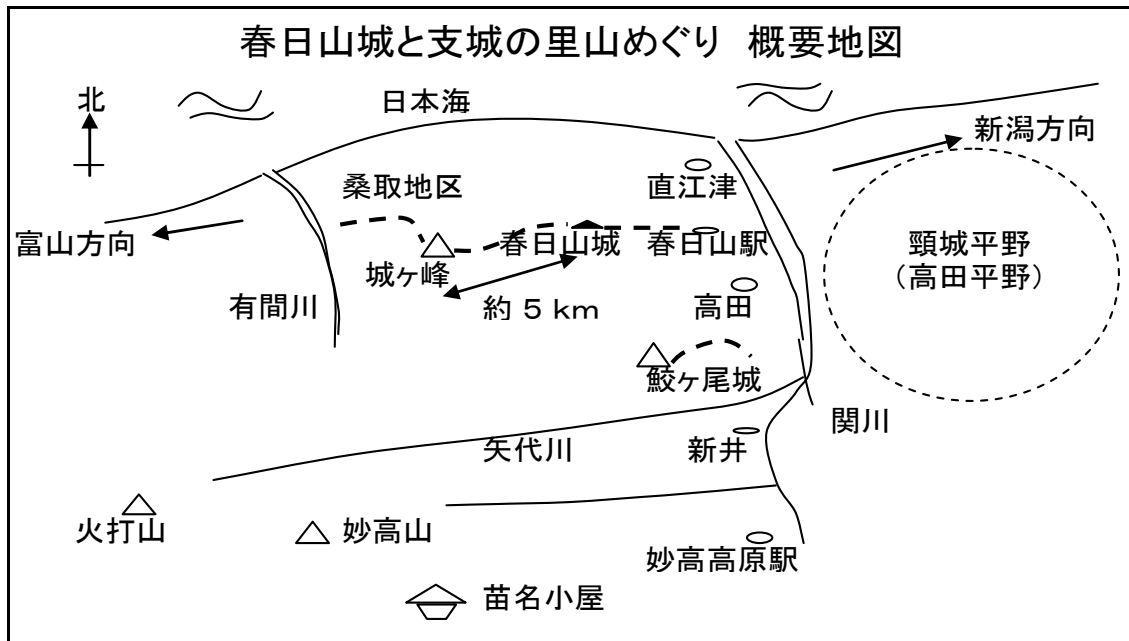
春日山城を中心として近隣には多数の支城や砦がありました。今回紹介するのは春日山城から尾根伝いに西にあります城ヶ峰（ジョウガミネ標高295m）です。五万図の高田西部を開きますと、地図の北東位置に名前が見えます。春日山城の西の固めとして置かれました。間近に日本海が望め、西から攻められた場合は見張りの砦となり、東から攻められた場合は西から尾根伝いに糧食を輸送できるようにした中継基地です。里山歩きの行程を示します。

麓の桑取地区→（1時間）→城ヶ峰→（2時間）→春日山城→（30分）→信越線春日山駅

城ヶ峰は4月ならばカタクリの花が一面に咲いています。尾根を歩きますと5月の連休時期にはゼンマイ、ワラビ、竹の子（根曲がり竹）がそれなりに採れます。最近私が発見した穴場として、地元の人にも余り知られていません。苗名小屋では今年の秋に建設40周年の祝賀行事を予定していますが、この里山歩きを希望される方がいらっしゃれば私がガイド役を務めます。なお秋は残念ながら山菜は採れません。ちなみに私の自宅は春日山城と春日山駅の間点にあります。郵便配達の利用改善のために地名変更が10年ほど前にありましたが、それ以前の小字名は「中屋敷」でした。どうやら上杉家臣団が昔は屋敷を構えていたようです。

謙信亡き後は景勝・兼続主従がもうひとりの養子である景虎（はじめは小田原北条氏から人質として来た人ですが、謙信は自身の若いころの名前を与えました）と跡目争いをしました。次回のご案内はその舞台になった妙高市の山城（鮫ヶ尾城）です。里山歩きのコースを歴史と共に伝えたいと思います。

（2008年5月22日 記）



小屋 40 周年記念行事報告
 ～ 苗名小屋で山菜三味のひと時 ～

諸角 壮弑 (5期)

苗名小屋 40 周年記念行事で「山菜を食べよう」の会が、開かれたので報告します。

参加者：諸角 (5) 諸角絢子 (5) 山本夫妻 (10) 松本 (山本友人) 安藤 (11) 榎本 (12)
 小口 (14) 鈴木 (14) 松本 (29) 笹倉 (30) 小野 (34) 親跡 (34) 計 13 名

日時：2008 年 6 月 7 日 (土) ～ 8 日 (日)

集合：6 月 7 日 11 時 新井の道の駅

回転すし「きときとすし」(8 名、昼食)

買物：道の駅の魚屋で、アジ、スズキ、イカ、ホタテ貝を仕入れ、スーパー「ナルス」にて米、パン、サバの水煮の缶詰など



小口さん紹介の北信州の郷土料理である「サバとタケノコの煮付け」を食べるため、午後は早速タケノコ採りに精を出しました。鈴木さんは午後仕事のため午前中に帰られ、お目にかかれませんでした。わざわざ自作のタケノコの瓶詰めを小屋まで届けていただきました。夕食分のタケノコは小屋の周りで十分採れました。残念ながらシイタケの春子は見つかりませんでした。コゴミ、ウワバミソウ、アザミ、ヨモギ、ハリギリ、コシアブラ、ワラビ、タラノメ、ウドなど、小屋の周りは食材の宝庫。夜はタケノコとさかなの BBQ、サバ缶とタケノコはミソ汁と煮物、ワラビの煮物、後の葉っぱは天ぷらで楽しみつつ、こんなにおいしいものが沢山・簡単に食べられるのになぜ皆さんもっと小屋を利用しないのだろうか、などとビールも入り皆さん勝手に喋っておいりました。6 月の小屋は山菜だけでなく花も豊富で小鳥の声につつまれて最高です。なお、鈴木さんの瓶詰めは翌朝ミソとマヨネーズで楽しみ、さらに残った分は誰かが持ち帰りました。

追記：諸角*2 は 9 日まで居りましたが、小野さんが下山したお蔭か天気予報に反し晴天で、カッコー、ホトトギス、コルリなどの声と樵仕事を楽しまました。小屋の西側に、朴の木とシナノキが並んでいましたが、朴の木が虐げられてかわいそうなのでシナノキを切りました。チャント塩とお酒でお清めをしてノコギリをいれました。シナノキを愛でている方がおられましたらゴメンナサイ。朴の木はこれから枝がのびる時期なので、立派に成長するはず。切り倒したままにつき、次回訪問の方は、お手数ですが薪に切ってください。

■ 横浜国立大学ホームカミングデーの案内

塩野貴之 (46期)

Let's go, YNU —盛り上げよう 同窓の力で—

今年も大学と3同窓会の共催により第3回ホームカミングデー(HCD)を開催いたします。回を重ねるごとに、大きな盛り上がりを見せています。今年の本メイン講演には、ノーベル賞の呼び声の高い藤嶋昭先生(横浜国立大学名誉博士・S41 工卒)をお迎えいたします。恩師や教職員、同期生、部活仲間など相互の交流を通じて、ともに大学の発展を目指しましょう。

■日時 11月15日(土) 10:00~15:30

■場所 横浜国立大学(常盤台キャンパス)

■プログラム

	時間	内 容	
		講師	講演名
第1部	10:00~ 11:00	藤嶋 昭	メイン講演 天寿を全うするための科学技術
第2部 -I	11:15~ 12:15	長谷川 善和	恐竜の世界へ招待
		武者 陵司	金融危機後、再浮上するグローバル経済繁栄の構図
		丸尾 昭二	光で操るマイクロマシン
		豊かな教育を語る会	
		ヨット部OB 鳥養 鶴雄	横浜の海から、日本の空へ—国産発の旅客機YS11が離陸するまでの記録—
第2部 -II	11:00~ 14:00	スポーツイベント	
	11:15~ 12:45	キャンパス探訪	
	11:15~ 13:15	研究室公開・見学	
	12:30~ 13:15	グリークラブOB合唱団演奏会	
		松澤 健	耳コピ演奏
第3部	13:30~ 15:30	懇親会	

* 横浜駅~大学間に専用のシャトルバスを運行する予定です。

* 乗り場、時刻表は決まり次第ホームページに掲載します。(http://homecoming.ynu.ac.jp/)

【問い合わせ先】 ホームカミングデー事務局
〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-1
横浜国立大学内 教育文化ホール HCD ルーム
TEL: 045-339-3158(不在の時もあります)



オーストラリア便り

Penny Pryor (36期)

私はちょっと遅れて横浜国大ワンダーフォーゲル部に入った。やはり留学生だったから大学に入った頃はいろいろ慣れなければならない事があってそれだけで精一杯だった。しかし夏休みの間にもっと日本の事を経験したくなってサークルかクラブに入る事に決めた。自然が好きで、同級生の愛ちゃんから YWV の事をいっぱい聞いていたので部室に連れていってもらった。面白い人がたくさんいて楽しそうだった。

遅れて入ったから新練1次は10月になった。その前にいっぱい覚えなければならない事があった。親切な先輩から審査会のことを教えて貰って何とかパスして山に登れることになった。でも山に行っても驚く事があった。それは皆同じテントで寝ることだった。5人か6人並んでよく狭い所に寝ると思った。オーストラリアでは多分2人ぐらいで寝るテントだったのに。男と女も同じ所で寝ることもちょっと驚いた。

YWVにはいろいろ変わった所があるかも知れないが、YWVのおかげで私は山の美しさだけではなくて本当の日本を見ることや感じる事ができた。

北海道と北アルプスの山々、屋久島の屋久杉、小笠原の島々など日本のあちこちに行くことができ一生忘れられない思い出になった。

36期の全員 — 愛ちゃん、渡邊君、岡村君、原田君、大池君、はが君と辻君 — もう結構仲良くて12年たっても6人ぐらいはまだ連絡をとっている。

去年の50周年記念式典のため、6人は日本のあちこちから集まって大学生のように気軽に話し合っていて楽しんでいた。

50周年記念式典では、他のOBの方からもいろいろYWVの事を聞くことができ面白かった。嘉納秀明会長からYWVの始まりの話を聞いた事は特別だった。

国に帰ってからもまだ山登りやハイキングをできるだけ続けている。オーストラリアではあまり高い山はないのでニュージーランドに行ったりネパールに行ったりした。



Machapuchare Mountain in Annapurna Sanctuary Nepal

2004年にネパールの Annapurna Sanctuary に行って 4650m ぐらいまで登った。一番高い所から Machapuchare 山(6993m)がこのように美しく見える。しかし今まで誰も登ったことはない。なぜなら神聖な山であるため登ることは国王から禁止されているのだ。山頂の方はちょっと魚の尻尾に見えるので Fishtail とも呼ばれている。やはり Himalaya の山々を歩くのは天国の中を歩いているみたいだ。いつかネパールに戻って Mera 山 (6476m) という山を登ってみたい。



Sutherland Falls, New Zealand

2006年にはニュージーランドの Milford Track に行った。山はあまり高くないが(1069m)この滝はニュージーランドで一番高い滝だ。580m で、近付くと大雨が降っているみたいでセパレーツを着ていないと服がびしょびしょになる。

この間 50 周年記念式典のために日本に戻った時も東北の磐梯山を登った。これからもたくさん山を登るつもりでいる。

* この原稿は、ペニー プライヤさん (入学: 1992 年 卒業: 1996 年) が日本語で書いたものを、同期の渡邊さんご夫妻が少々修正したものです。

平成20年6月6日に、4期の齋藤伸一君はがんのため逝去されました。葬儀は本人の遺言で外部に知らせず身内だけで済まされ、7月19日に浦安霊園へ納骨されましたので、28日に、谷上(4期)、亀井(5期)、服部(7期)の皆さんとご自宅を弔問しお線香を上げて参りました。



平成19年1月同期会より

伸一君は5年前に高崎へ単身赴任中に、大腸がん(上行結腸がん)を切除する手術を受けたのに、1週間で退院して仕事に復帰する程の会社人間でした。その後、海老名へ単身赴任となり、平成17年6月のシニア月例会「丹沢三の塔」には、最初で最後の参加をする程元気になりました。その後の定期検査では腫瘍マーカーは低値でしたが、昨年2月にがん転移が発見されて、一時大阪の病院に通院するなどあらゆる治療を試みましたが、リンパ液ががんに侵されていて成功しませんでした。

昨年11月のYWV創部50周年記念式典に伸一君が参加された時に聞いた話では、「リンパ節メイン(背中付近)に腫大(腫瘍のようなもの)、首の付け根のぐりぐり、大静脈メインの塞栓(エコノミー症候群のようなもの)、両肺に無数のけし粒状の結節があり、がん性疼痛が主症状ですが、抗がん治療は一切中止し、現在の治療は痛み止めの麻薬服用中です」と述べていました。

今年2月末でようやく退職されて浦安の自宅へ戻り通院療養を続けていましたが、疼痛で歩行が困難になり4月20日に順天堂大学浦安病院へ入院されて、再び生還帰宅することはできませんでした。父親は先の世界大戦で戦死されていますので、母親だけに育てられた伸一君なのに、92才の母親に先だって逝くのはさぞ無念であったことと思われまふ。

伸一君は創部50周年記念誌に、「他大学との交流」、「初の海外、返還前の沖縄PW」を執筆されていますが、現役執行部時代にYWVの組織化や運営という内部の問題に留まらず、YWVをもっと外の世界にオープンにしていきたいとの信念で活動していました。

それで、全日本学生WV連盟を通じての他大学との交流や、地元国大、市大、関東学院大、神大、フェリス女大が加盟する神奈川県学生WV連合を中心になって設立するなど、昭和36年から38年にかけて大変広角な視野で積極的に活動されて立派な足跡を残されました。

返還前の沖縄は渡航にパスポートが必要な外国でしたから、将に初めての海外遠征隊のリーダーとして、琉球大ワングル、神戸商大ワングル、地元の人々などと交流を重ねましたので、これも外の世界に眼を向けた立派な活動でありました。

すぐ近くの東京ディズニーランドへ元気な孫を連れていくこともできずに逝ってしまい、やり残したことが多くて残念な様子ですが、どうぞ安らかにお眠り下さい。

■ 現役部員の活動紹介

春合宿報告

～屋久島・宮之浦岳で春合宿～

主将 高岩玲生 (50期)

合宿期間 : 08.3/4～3/7

合宿メンバー : (計8名)

4年=安田・島田、2年=高岩 (CL)・石倉 (SL)、1年=茂呂・田沼・中野・吉原

合宿目的 : 本州の山とは異なる屋久島の自然に触れ、世界自然遺産たるその様を満喫する。

合宿1日目

行程 : 山形屋バスセンター (鹿児島中央) →谷山港→宮之浦港

今年の合宿の集合場所は鹿児島市の山形屋バスセンターでした。集合場所までの行き方は自由です。各自が時間・予算に応じた行き方を探しました。先発隊は鹿児島中央でEPI ガス缶などの買い出しを行いました。

屋久島まではハイビスカスという名のフェリーで行きます。鹿児島から屋久島まではまっすぐ行くと6時間程ですが、我々は途中種子島に停泊する夜の便を利用した為、計13時間かかりました。因みに飛行機で屋久島空港まで飛ぶと1時間以内に着きます。ハイビスカスの利点は運賃のみです。時は金なり？

日をまたぐため、当然船中泊です。激しく揺れる為立ってられないので、目を覚ましていても覚ましていなくても結局「寝る」ことになります。食事も船内。種子島で買い物に行った部員もいました。

合宿2日目

行程 : 谷山港→宮之浦港→白谷雲水峡→白谷山荘
(泊)

屋久島は雨が多く、俗に「ひと月に40日雨が降る」と言われたりします (ほぼ毎日降る、1日に2度降る日もある…の意)。しかし、我々が行った4日間で雨はほとんど降りませんでした。奇跡だ。

宮之浦は屋久島で最も栄えている町です…小さいですが、ここでも買い出しを行いました。荒天により船の欠航が相次いだらしく、食糧不足気味だったのは「島」ならではです。フランスパンと鶏肉を手に入れることができず、食パンと豚角煮+ツナ缶で代用。印象的な従業員のセリフ→「昼に船が到着するからそれまで待つ」…。

天気は良かったのですが、寒波のため道路が凍結しており、予定していた淀川登山口からの入山ができなくなってしまいました。そのため予定を急遽変更し、白谷雲水峡から入山することに決定。

山中で普通はテントに泊まりますが、屋久島は山小屋が豊富なため、今回は山小屋 (白谷山荘) を利用しました。「山荘」と名前が付いていますが、無人の避難小屋で作りは質素です。この日の就寝時間は20:00、起床時間は4:30です。



白谷雲水峡散策道：この辺から山道

合宿3日目

行程 : 白谷山荘→辻峠→楠川分かれ→大株歩道入口→ウィルソン株→大王杉→縄文杉→高塚小屋 (ピストン)

3日目は白谷山荘から縄文杉までピストンです。楠川分かれから大株歩道入口まではトロッコの廃道上を歩

きます。廃道のはずですが、たまに管理の人がトロッコ（動力付き）に乗って通過するので、油断すると危険です。大株歩道は傾斜が急な山道です。寒波のせいで雪が大量に残っており、若干苦戦。

吉原（下段左）が変なポーズをとっているが、決して調子に乗っているわけではない。隣にいる中野が横から引っ張っているだけである。因みにバックに見えるのは、かの有名な「縄文杉」であり、その大きさは想像を超えるものがある。実は監視カメラで厳重に監視されているVIPである。

この日はピストンなので昨日と同じ白谷山荘に泊まりました。

合宿4日目

行程：白谷山荘→白谷雲水峡→宮之浦→オーシャンビューキャンプ場（テント設営）→千尋の滝→JR ホテル（温泉）→潮騒（料亭・飲み会）→オーシャンビューキャンプ場（泊）

白谷雲水峡から白谷山荘までの散策道は整備されており、軽装の観光客が大勢いる。そのなかで巨大なザックを背負った我々の存在は異様である。散策道は沢の流れに沿っており、涼しげな水の音を楽しみながら、杉ウォッチング？ができる。

花粉症の原因として諸悪の根源的に扱われる杉が、ここまで敬われるのも屋久島ならではの光景である。

春合宿では屋久島の千尋の滝という観光スポットに赴きました。疲れているわりに皆元気、特に後列。

ここまで俺の写真無し。

山での疲れは温泉で癒します。我がワングルは山行後に温泉に入る習慣があります。今回は露天風呂からの眺めが秀逸な JR ホテルで入浴しました。

入浴後は地元料理が有名な、「潮騒^{しおさい}」へ。

山行はすべて終了したため、皆テンションが高い。所謂飲み会。シカのタタキ、トビウオのから揚げなど屋久島の味を満喫。タンカン（柑橘類、みかんのようなもの）が各料理についてくるのが特徴。各地の名物を食べて回るのもワングルの楽しみ方の一つ。

ワングルは昨年創部 50 周年を迎えました。今後とも最良に願います。



縄文杉前：記念撮影



千尋の滝展望台：集合写真

夏合宿・壮行会が盛大に

2008年8月9日(土)横浜駅西口の「東方見聞録」で現役部員3名、OB4名の計7名で夏合宿の壮行会が開かれました。年の差など感じられない和やかな会で、3日後から始まる夏合宿が大いに盛り上げられました。



左から

高岩 玲生 (工3) 頼りがいのある主将
夏合宿のリーダーです
鈴木俊平太 (工2) 今年入部しました
夏合宿は不参加ですが、
壮行会には律儀に出席
茂呂 将典 (工2) 横浜の水にも、食料計画
買い出しにも慣れました

*平成20年夏合宿概要

日程・コース

8/12 観音平～青年小屋
8/13 青年小屋～行者小屋
8/14 行者小屋～本沢温泉
8/15 本沢温泉～白駒池
8/16 白駒池～双子池

今年の夏合宿は5泊6日の八ヶ岳縦走で、OBの皆さんにも馴染みのあるコースです。

参加者は3年生2名、2年生3名の計5名。

エスケープルートもしっかり確保され、安全に配慮された計画で夏合宿の報告が楽しみです。

*次の現役活動の予告・・・大学祭(常盤祭・10月31日～11月2日)模擬店で恒例のカレーの店を開きます。
OBの方々のご来店をお待ちしています。

OB会費納入のお願い

会計幹事 吉野大次郎 (2期)

会報39号に同封しました払込取扱票は、2009年度年会費、前納会費、寄付等をお振込いただく用紙です。
取扱いはゆうちょ銀行で、払込手数料は3万円未満の場合、窓口120円、ATM80円です。

- ・年会費：2,000円(08年10月から09年9月までの2009年度の年会費)
(払込取扱票に「今年度会費は納入する必要はありません」という表示がある人は納入不要です)
- ・前納会費：10,000円(2009年度～2014年度の6年間の年会費前納分)
- ・寄付金：(一般、小屋)どちらかを○で囲んで
- ・最新名簿代金：500円(郵送希望者のみ)

払込取扱票を紛失した場合は、ゆうちょ銀行で用紙を貰い、下記口座番号と加入者名を記入してお振込ください。

口座番号:00290-3-2419
加入者名:横浜国立大学ワンダーフォーゲルOB会

■ OB会報の発送方法とOB会費未納について

編集委員長、会計幹事

OB会報の発送方法については、2005年度よりOB会費未納会員へは年一回の総会案内号以外の会報は発送しないこととなりました。

今回のOB会報第39号は総会案内号ですので全員に発送いたします。

下記会報発送方法をご理解いただき、OB会費納入にご協力いただきますよう、あらためてお願いいたします。

《OB会報の発送方法》

1. 過去5年間、OB会費未納の会員(入会后10年以内の会員を除く)については、総会案内号を除きOB会報の発送を停止します。
2. OB会費振込用紙及び総会出欠ハガキを同封する号(総会案内号)は、会員全員を対象に発送します。

■ 編集委員会からのお知らせ

【訃報】 齋藤 伸一氏(4期)が2008年6月6日に亡くなりました。
謹んで、ご冥福をお祈り申し上げます。

○ 内容の訂正とお詫び

OB会報38号の文章の内容に2箇所間違いがありました。ここで訂正し、お詫び申し上げます。
(誤) (正)

- ・17ページ: 「バナナ6本」→「バナナ6万本」
- ・19ページ: 「自然は然り乍ら」→「然は然り乍ら」

文章の味わいが台無しになってしまい申し訳ありませんでした。

○ OB会報への投稿のお願い

OB会報編集委員会では自由投稿コーナー、名人紹介コーナー等の原稿やカット、スケッチ、写真を常時募集しています。また皆様に紹介したい情報も受け付けています。字数、サイズは問いません。どしどしお寄せ下さい。

情報あて先 下村 蓉子(10期) shimomurayouko@ybb.ne.jp

松本真理子(8期) marihiro@cc.catv-yokohama.ne.jp



苗名小屋 は山菜の宝庫
収穫した タケノコ
2008.6.7

YWVOB 会会報第 39 号

発行 行：横浜国立大学ワンダーフォーゲル部 OB 会
発行 日：2008 年 9 月 1 日
発行責任者：嘉納 秀明(1)
編集責任者：編集委員長 下村 蓉子(10)
編 集：編 集 委 員 松本真理子(8)
印 刷 所：株式会社 カワチヤ・プリント（東京都港区新橋 5-31-7）
編集にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。